

茶ぐわくゆんたく



162

生活道路から通学路へ

―学びの街へ―

左上の写真は、1974（昭和49）年頃の長田交差点の沖縄国際大学人口付近の道路です。

沖縄国際大学の誘致が決まる前は、地元の生活道路でした。当時の道路は舗装されておらず、車がすれ違うのもやっとで、周りはさとうきび畑が広がり、のどかで静かな場所でした。

ぬうように、さとうきび畑の筋道がたくさんあり、風が吹くとへざわざわとさとうきびが揺れていまし



▲長田交差点 1974(昭和49)年頃
写真中央を進むと沖縄国際大学へ続く

た。

1971（昭和46）年に宜野湾市はこの地域が教育環境・交通機関・文教地区としての条件が合致しているとの理由で、新設大学（沖縄国際大学の統合）を誘致しました。そして、1972（昭和47）年4月にはプレハブ校舎で沖縄国際大学が開学しました。その後、大学へ通じる道路建設も進み、大学前の道路は現在のように変わりました。

今、大学の周りには学生用アパートも数多く建ち、大学生の専用駐車場が増え、さとうきび畑はすっかり姿を消してしまいましたが、沖縄の将来を担う若者たちが集う文教地区に様変わりしています。



▲長田交差点 2017(平成29)年

はぐぶつかんの部屋 ③⑧

博物館の連携で育まれること

博物館では年間6〜7本、歴史や民俗、考古、自然などをテーマに企画展を開催しています。企画展はテーマを柱に据えて、最も効果的な展示資料が何かを検討して展示物を決めます。そのため単純に物を置けばよいというわけにはいきません。展示物は館の収蔵資料もあれば、地域や自治会、他市町村の博物館から借用する場合もあります。また、当館から他館に貸し出すこともあり、お互いに協力と連携を図りながら展示のストーリーを組立てていきます。

資料借用には書類上の手続きはもちろんのこと、設置の際には、その博物館の学芸員が来て設置することもあります。学芸員は、資料の性質や特徴を理解しており、展示物の設置にも細心の注意を払います。また、資料によつては事前に館施設の警備や消防、展示室や展示ケースの温室管理、空調などの管理状況を確認した上で借用が許可されます。展示資料の保存管理の環境を十分整えたいうえで、皆さんに公開することも大事なことなのです。

さて、今年も国立科学博物館主催の「琉球の植物」展の巡回展が当館

で開催されます。市立博物館初の国立科学博物館の巡回展です。琉球列島の成り立ちからその地域環境で育まれる植物をはじめ、人との関わり、本市で確認できる植物も紹介した企画展です。

このように博物館は館同士、特に学芸員間で情報交換を図り、信頼関係を築くことが幅広い企画展の開催へと結びつきます。そうすることで、見学者が知識を得る、地域を知る喜びに繋がっていくのです。

ぎのわん教育の日記念・国立科学博物館巡回ミュージアム in 宜野湾「琉球の植物展」
日時 11月25日（土）〜12月17日（日）
場所 市立博物館
入場 無料



企画展の様子（「宜野湾探訪！～新たな宜野湾、発見～」より）

【問合せ】市立博物館 ☎870-9317 入館料無料となっておりますので、お気軽にご来館ください。